

選手直前インタビュー 俺の出番だ!!

近藤 龍徳

(愛知/101期)

最近は2場所続けて予選で確定板を外すなど不本意な成績だが、ホームバンクの記念に向けて調子を上げてくるはず。19、20年と当所のオールスターではいずれも失格を喫するなど気合が空回りしている印象もあるが、平常心で走れば上位進出も。



高橋 和也

(愛知/91期)

しばらく優参から見離されているが、1月当所61②着、同月松山1④②着など連がらみは多い。当所記念では68周年大会で決勝に乗っていて、中部ライン3車の先頭で戦った。今年の記念開催初参戦がホームバンクならいつも以上に気合も入る。



原口 昌平 (福岡/107期)

昨年11月佐世保のS級初Vで自信を付けたのか、その後は成績が安定してきた。今年も初戦の1月大宮記念で決勝進出と好スタートを決めると、続く同月松山も1②着で優参を果たしている。



木村 弘 (青森/100期)

昨年の後半戦はやや末脚を欠く場面が目についたが、1月立川記念でG3初優参を果たすと、2月伊東は2①着で決勝進出。準決では根田空の逃げをまくりで仕留めるヒットを飛ばした。



藤井 侑吾 (愛知/115期)

直近4カ月の連がらみの決まり手はすべて逃げてのもので、相変わらず競走は積極的だ。1月豊橋記念の二次予選で逃げ切ると、2月大垣の準決は根田空、金子幸らを相手に逃げ切り。ホームの記念で大暴れだ。

Rookie Champion Race



3/6 (最終日) 9R

モノが違う吉田有



前回生と比べるとS級選手の数は4名と少ないものの、A級の選手も含めてやはりハイレベルな争いだ。だが、現時点では吉田有希の実績が冴抜けている。特進するやVラッシュで旋風を巻き起こしている吉田。まだグレード戦の経験は少ないものの、すでにS級トップクラスと実力的に遜色ないことを示したのが2月伊東での完全優勝だった。決勝では遂に新田祐超えを達成。松坂洋に絡まれたとはいえ、ドカしての番手まくりで応戦の新田をまくり切った豪脚は圧巻だった。個の戦いになっても、落ちていて自分のタイミングで仕掛けられればグングン加速していつて他を圧倒してしまう。

中四国勢はラインを組む可能性もあるが、それぞれ自力で勝負するであろう犬伏湧也、山根将太は打倒吉田の有力候補となる。S級に上がってからの吉田が凄すぎてかすんでしまっている感はあるものの、犬伏も在所ナンバーワンに相應しい走りを見せている。高いトップスピードを生かしたカマシ、まくりは威力満点で、組み立て次第では吉田に十分立ち向かえる。山根は2月小倉の準決で原田研の連勝を止める逃げ切り勝ちとビッグヒットを飛ばした。119期きっての先行型は橋本凌汰の援護で先手奪取に迷いはなさそう。また、いち早くS級に特進して実績を積んでいる上野雅彦も意地を見せたい。

木村佑来、志田龍星、上杉嘉楓も特進こそ果たせていないが、実力的にはS級でいつでも通用する機動型だ。それぞれ気後れすることなく虎視眈々と一発を狙う。